



森の息吹

No.135 7月号

2017.6.26 発行

編集代表：五賀利雄

0133-26-3738

6月の活動報告 安全作業講習会／コープ植樹祭に参加／下草刈

6月4日(日) 林内作業の安全講習会 主催「協働の森の会」 参加者8名 天候 雨

協働の森の活動の一環として作業とは別に教育・研修活動を年2回実施する予定です

今回は林業労働災害防止協会の増田氏を講師に迎え、チェーンソー刈払い機を使用する場合の安全作業の基本を学びました

。レジメに沿ってお話をお聞きし、特に刈払い機では下り坂に向かったの使用は危険であるとの事でした。

また動画を見ながらハチに刺された場合取るべき行動など学びました。



6月11日(日) コープ未来の森づくり植樹祭 参加者 6名 天候 晴れ

コープさっぽろからは毎年助成金を頂いております。植樹祭は当別町道民の森で開催され趣旨に賛同されたたくさんの方々(お子様も含め 237名)が植樹を行いました。

今年はエゾヤマザクラ、イタヤカエデ他、約26種類1000本を手分けし植えることが出来ました。私たちは植樹のサポートを担い植樹の仕方などアドバイスを行いました。

午後は「森の探検」ゲームやクイズを親子で参加したりしそれぞれ大自然の中で楽しいひと時を過ごされたようです。

6月17日(土) あいの里中学植樹地の下草刈りと炭焼き炭材と燃材の切り出し 参加者 6名 天候 晴れ



詳しい活動内容は聞くことが出来ませんでした。チェーンソーの整備が前年度に出来ておらず始動しない物やまた使用頻度が少ないため取り扱いに戸惑う場面も見られたとの事です。実技指導の必要性がありそうです

6月28日(水) 全国植樹祭記念場跡地の保育活動について 和みの森 3名の参加予定

7月の活動案内

7月2日(日)B班 内容 「里山林づくり」植栽地の下草刈りと作業道の草刈／昨年の植栽樹木のデータ測定 山田氏倉庫前に8:45 集合 持ち物 刈り払い機・ほか 午前で終了

7月8日(土)A班 ※ 追加された活動です

どろ亀さん記念・当別22世紀の森 新山川草木へのヘルプ作業

内容 下草刈り 道民の森 青山地区 集合場所 山田氏倉庫 集合時間 8:30

持ち物 刈払機、腰道具、飲み物 昼食はバーベキューを予定

7月22日(土) B班 内容 炭焼きの準備 活動場所 岡田氏の庭 集合場所と時間 9:30 山田氏倉庫前 持ち物 軍手 午前で終了

7月29日(土)～30日(日)A班 ※詳しくは後日お知らせします

内容 炭焼き 宿泊可能な方は火を囲み談笑しましょう

活動と集合場所 岡田氏の庭 集合時間 9:30

※欠席の方は活動日4日前までに班長に連絡を！！



私は長野県小諸市の出身です。

長野県では小学校で県歌「信濃の国」(作詞:浅井 冽、作曲:北村季春)を習い歌えるようになります。そして学校の大きな行事の時にみんなで合唱しました。

札幌に来てある人に、長野県には県歌があることを話すと驚かれたことがあり都道府県歌は一般的ではない事を知りました。

歌詞は6番まであり、学校では3番まで習ったと思いますが今では1番しか覚えていません。

1番の歌詞は

♪「信濃の国は十州に 境連ぬる国にして
聳(そび)ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し
松本、伊那、佐久、善行寺四つの平は肥沃の地
海こそなけれ物さわに万(よろ)ず足わぬ事ぞなき」

2番は山、川、3番は産業、4番は名所、旧跡、5番は著名人、6番は碓氷峠の紹介で終わります。長野県歌に関するエピソードです。

昭和23年にあった話です。長野県は長野が県庁所在地ですがもう一つお城で有名な松本市があり人口も当時はあまり変わらなかったそうです。そこで長野県を分県し松本を中心とする県を作ろうと主張する一派があり県議会で討議をしていた時これに反対する県民が県議会の建物を囲み全員で「信濃の国」を大合唱しました。分県派はこれに氣勢をそがれ分県はなくなったそうです。今回この文章を書くためインターネットでいろいろ調べましたが、長野県には県歌があり県民(出身者も含め)全員が歌える歌があることは自慢しても良いことだと思います。



木に触れて
林で遊び
森と育つ



編集後記

6月 先日、サロマ湖 100 キロウルトラマラソンを走ってきました。今回で 8 回目の出場です。

昨年までにいずれもタイムは 12 時間 50 分前後ですが 6 回の完走を果たしています。

はて、今年はどうだったのでしょうか。ということで当日は 1 日中、雨が降りしきりさらに股関節が激しく痛み出し寒さと辛さで地獄の思いで見事 70 キロ手前にてリタイヤとあいなりました。残念だけど、しばらくランニングは中止ですね。

話は変わりますが、昨年秋にかなり大きな幼虫を土中で見つけたので飼育ケースで育てこのほど掘ってみますと中から出てきたのがミヤマクワガタでした。(表紙面に画像)

7 月は恒例の炭焼きがあります。炭の出来栄は置いといて今年も楽しく語れる場になればよいと思います。

※会報ですが月初めの活動告知の都合で発行が早くなっています



(100 キロスタート前の筆者)

記 岡田